

三滝だより

NO. 274

2024年11月15日発行



きのこの世界にようこそ

秋の味覚といえど何を思いうかべるかな？やっぱりきのこのしか勝たんでしょ！？今年三滝をさんぽして見つけたきのこをみんなにも紹介するね。



アカヤマドリ



ホコリタケのなかま



テングタケ



菌類不明



サルノコシカケ



サルノコシカケ (約30cm)

きのこの正体とは!?

みんなが食べているきのこは子実体といって、子孫を残すためにできた部分で、本体は主に地面の中や、落ち葉の上などにある菌糸という部分なんだ。菌糸がたくさんあつまって子実体になり、かさの裏などから胞子を飛ばして、また菌糸になって増えていくよ。



きのこには色々な種類があって、さまざまなくらし方をしているよ。

菌根菌 (マツタケ、テングタケ、トリュフの仲間など)

生きている樹木の根と菌糸がつながっていて、お互いに必要な栄養を与えているよ。「共生」しているとも言えるよ。地面から生えているきのこはこの種類が多いんだ。



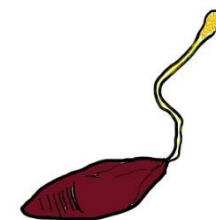
腐生菌 (シイタケ、マイタケ、キクラゲなど)

枯れたり腐ったりした木や、動物の死骸を分解して、土に戻しているよ。きのこがなかったら、枯れ木や落ち葉だらけになっちゃうから、きのこは「森のそうじ屋さん」だね！



寄生菌 (サナギタケ、ヤグラタケなど)

植物や昆虫(セミの幼虫、ガのさなぎなど)などの生き物にとりついて生活するよ。昆虫に寄生するきのこはちょっとこわいけど、「冬虫夏草」と呼ばれていて、種類によっては漢方薬や健康食品に使われているよ。



※きのこは、猛毒をもっているものや、さわっただけで炎症をおこすものがあるから、くわしい人と一緒に観察してね。

ぼうけんぼし 冒険橋(つりばし)について

私たちの住む広島市には、太田川や元安川、京橋川などたくさん
の川が流れています。川には橋が架かり、人や車がひっきりなしに橋を渡っています。



写真1

三滝少年自然の家にもあります。施設のシンボルとなる、「冒険橋（約40m）」（写真1）と呼ばれる橋です。

この冒険橋、「つり橋」と呼ばれる形状の橋で、瀬戸内海にかかる大きな橋、例えば明石海峡大橋や因島大橋、安芸灘大橋（写真2）などと同じ構造でつくられています。

つり橋の構造は、①主塔、②メインケーブル、③桁、④アンカーレイジ、⑤ハンガーロープの5つの部分から形成され、三滝少年自然の家の冒険橋はサイズこそ小さいですが、つり橋の構造を学ぶにはよい橋だと思います。

瀬戸内海にある島と島を結ぶ橋に多く見られるこの工法は、橋げたをたくさん作る必要がなく2本の主塔しかいないため、その間を大きな船も通過できることから、採用されているようです。



写真2

三滝少年自然の家の冒険橋は、深い谷を渡る橋なので、橋げたをたくさん作るのも大変で、また、アスレチックにつながる第一の関門として高揚感を高める一役をかねていると思います。

これから秋、紅葉に向けて、自然の中を散策しながら、ハラハラ

ドキドキも味わえる冒険橋に、ぜひお越しください！

さて、最後に問題です。三滝少年自然の家にある冒険橋の桁（足場の木）は何本あるでしょう。正解は……。自分で確かめよう！



この橋はどこの橋かわかるかな？
ヒントはこの紙面にあり！

公益財団法人広島市文化財団
広島市三滝少年自然の家・広島市グリーンスポーツセンター
〒733-0802 広島市西区三滝本町一丁目73番地の20
TEL082-238-6301 FAX082-238-6302
<http://www.cf.city.hiroshima.jp/mitaki-c/>